

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 ・未来社会を創造する資質・能力を身に付ける子 ・プレゼンテーション教育・歩み寄り教育・ICT教育 ・チャレンジ教育・郷土教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④DXを取り入れた教育の推進 ③地域の関係団体等との協働による郷土教育の推進 ②学校の自己実現を支える教育の推進 ①豊かな心、健やかな体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	自立（自分で）・共生（仲間とともに）	ふるさとの中で、自分で判断して行動し、人と関わり共に生き抜く力	楽しい授業を追い求める	①② 思考し続ける「自立タイム」、表現し続ける「共生タイム」の創造	自主的な「自立タイム」、主体的な「共生タイム」を位置づけ、自分の力で取り組む、仲間と学び合うの評価を90%以上にする	A	・「自立タイム」と「共生タイム」(生徒評価96%)で、どちらも達成度をクリアした。研究として思考し続ける、表現し続けるということにこだわった結果であり、生徒と共に学校全体で取り組んだ評価である。 ・教科が楽しいという実感も(生徒評価96%)となった。少人数であることを強みにして教科の学び方にこだわり、生徒が主体的に取り組む授業を意識することができた。 ・今まで学んだ力を活用して、その場で思考判断して説明させるなど学び合いを充実させ、一人ひとりの表現力を高めていきたい。
					①⑤ 教科の学び方を定着させ、教科横断的な表現力の向上	多くの根拠をもつために説明力を身に付け、ICT機器を利用するなど説明力を発揮して仲間を納得させることができる	B	
					①② 「わかる」「できる」「深まり」を実感できる楽しい学び	達成感・充実感・満足感を味わわせることで、教科が楽しいと実感するの評価を90%以上にする	A	
				自分の居場所がある	①⑤ 「自主的な動き」の上に「主体的な動き」を目指す特別活動	生徒の活動を「自主的」「主体的」の視点で評価して、生徒が創り出す生徒会活動を目指す	B	・生徒の様子を様々な場面で捉えて価値付けし、教員が一丸となって生徒の今と向き合うことで、個の実態に即した人間的な醸成を図った。 ・自分たちや学校、地域のためにという自主的な思いは実践できている。教師が見通しを持ち、生徒の「こうなるといいな」という思いを実現する主体的な活動を支援していきたい。 ・教師が生徒に問いかけ自問自答する場面が多くあった。今後も継続させ、自己理解を深め自信が持てる力を高めていきたい。
					①⑤ 「個」に確かな力を付け、「集団」の力を育てる生徒指導	短学活を中心として、人間関係の醸成や価値あるものを実感させるなど、人間性を高める指導を日常的に行う	A	
					① 「なりたい自分」への地道な取組と個の見届け	個の目標に対して、今何をすべきなのかを問い、生徒の相互評価も含めて自己肯定感・存在感・有用感を高める	B	
				義務教育学校への礎を作る	③ 小学校との具体的な連携	小中連携の3つの柱で具体的な連携を進めつつ、2つの指導部会による学校運営とすることで相談支援体制の充実や会議の精選を図る	A	・小中の教員が中3の卒業時の姿を描いて、発達段階に応じた今の子どもに必要な力を確認しながら進めることにより、義務教育学校に向けての土台ができつつある。 ・教育課程内でも地域とのつながりを大切にした活動を伝統として行っている。また、地域参観日で「地域について語り合う」という場を設定し、大人と子どもが共に考えることで、思いを受信するだけでなく発信することができるように地域に根ざした教育を推進し、義務教育学校への土台作りを意識している。
					③⑤ 保護者・地域との実情に応じた積極的な連携	開かれた学校を踏まえて、保護者や地域に生徒の活動を披露したり、生徒と交流する場面をつくりたりして連携を深める	A	
					③ 9年間を系統立てた郷土教育の充実	系統性を踏まえ、地域の方から郷土の自然、文化、産業、歴史等を学びつつ、新しい地域の開拓を行い、郷土のよさや課題について考える機会を増やす	A	

学校運営協議会における主な評価内容

- ・教師と子どもが良いつながりがある。継続してやり抜く力をつけてほしい。
- ・少人数を生かして個々に対応している。義務教育学校に向けて特色ある学校を目指してほしい。
- ・値打ちをを伝えることが自分に自信を持つことにつながっていく。不登校傾向生徒へも手厚い対応を臨む。
- ・子どもたちは前向きに取り組んでいる。郷土教育を通してふるさと朝日、高根を感じてほしい。